(6) 小平市立小平第六小学校「すてきな町小平！（お店番体験学習)」、「会社を作ろう」、「マイチャレンジ学習」

◆教育の対象者
○東京都小平市立小平第六小学校の児童
※小学３年生：「すてきな町小平！（お店番体験学習)」
※小学５年生：「会社を作ろう」
※小学６年生：「マイチャレンジ学習」

◆教育の実施者
○東京都小平市立小平第六小学校

◆教育プログラム実施のコーディネーター
○(株)セルフウィング（「会社を作ろう」のみ）

◆教育プログラムの企画者
○東京都小平市立小平第六小学校教員

◆教育プログラム企画の背景・経緯
○東京都小平市立小平第六小学校では「地域の風が行き交う学校づくり」をキャッチフレーズにしており、地域と疎遠になりつつある子ども達に、あらためて地域社会を体験させることにより、地域と共に生きる子ども達の育成を目指している。
○社会科の授業の一環として「商店や商店街などの販売の工夫を知る」という目的の社会科見学を実施していたが、その延長線上で小学３年生を対象に「すてきな町小平！（お店番体験学習)」が実施されるようになった。
○1999 年度より夏休み中に実施されてきた「林間学校」が授業時間中に実施される「移動教室」へと変更された。
○2002 年度からの「総合的な学習の時間」の本格導入を想定し、ニーズに即した学習プログラムが検討されてきた。

◆教育プログラムの学習指導要領における位置づけ
○「総合的な学習の時間」の導入を想定し、「社会科の授業」や「移動教室」あるいは「学級の時間」などで試行。
○お店番体験学習や職業体験学習は「総合的な学習の時間」の中で実施。

◆教育プログラムの目標
○学校と家庭、地域社会の協調・融合

◆教育プログラムの目的
○地域社会の体験（地域社会に住む人々に直接接触することで、地域には昔から脈々と引き継がれてきた生活があることを実感させる）
○八ヶ岳ならではの自然や農業・酪農・林業などの産業、地域に伝わる文化に触れ、人との関わりを通してその生き方を学ぶことを通じて、子ども達が職業観や生き方の幅を広げること
○特に職業体験学習は、卒業を控えた子ども達に自分の将来を考えさせ、職業のイメージをつかませることを目的としている。

◆教育プログラムの内容

a)「すてきな町小平！（お店番体験学習)」、「会社を作ろう」

○実施期間・回数・頻度・延べ時間
・「すてきな町小平！（お店番体験学習)」は 1998 年から実施している。
※2000 年度は２学期の計 46 単元で実施された。
※販売体験時間は１回約３時間。年１回だったが、2000 年度から年２回に増やした。
・「会社を作ろう」は 2002 年１月に実施。

○実施場所

・商店街および教室

○対象者の人数規模

・「すてきな町小平！（お店番体験学習）」は２～３人が一組となる。（大型商店の場合は６人一組。）

・2000 年度に実施されたフリーマーケットは、８人づつのグループで 12 店舗出店した。

○プログラムの内容

・「すてきな町小平！（お店番体験学習）」は、子ども達が主体的に店の中に入り、実際の商売を実体験するプログラムである。

・1999 年度の具体的なプログラムは以下のとおりである。

※学区巡りを行い、前年度の小学３年生の体験談を聞くことで、子ども達自身に「どこで何をしたいか」イメージを持たせる。

※実際に店に入る前に、商店の観察やそこで働いている人へのインタビューを通じて、子ども達が事前に商店とコミュニケーションをとる。

※各自が希望の商店にお願いに行き、本物のお店番体験をする。

※実施後に協力商店に対してお礼をし、各自の体験を発表する場を設けた。

・お店番体験実施中は、店頭に「六小３年生お店番体験中」と張り紙が出され、一般の買い物客の理解を得る工夫がされた。

・2000 年度は、お店番体験が年１回から２回に増え、子ども達自身によるフリーマーケットも開催された。

・販売体験回数が２回に増えた理由は、１回目の販売体験を終えて子ども達から「もう１度やりたい」、「もっとお客さんに来てもらいたい」、「もっと買ってほしい」という声に応えたためである。そこで、受入先の商店にもっとお客さんに来てもらうためにはどうしたらよいかについて、子ども達が各自でアイデアを出し、各商店主と話し合い、販売促進活動を実践する、という形式で２回目が実施された。具体的な販売促進活動はチラシ配布、割引セールの実施、試食コーナーの設置などである。

・フリーマーケットは、あらかじめ子ども達との話し合いの中で、「本物のお金を使うこと」「売上はお世話になったお店へのお礼と、学校のために使うこと」「商品は、手作り品と家にある不要品とすること」などが決められた。また、子ども達のアイデアで、買い物客に便利なように託児所も開設された。

・お店番体験の受入先などを中心にフリーマーケットのチラシを配布した。また、子ども達は「自分たちの不要品は、自分たちより小さなこどもを持つ保護者に売れるだろう」と考え、自分たちが通っていた幼稚園や保育園にもチラシを配布した。

・フリーマーケットによる利益は、自分たちで花を育てそれを商店街に飾るという形で商店街へのお礼とすることとした。

・「会社を作ろう」は、３年生でのお店番体験をもつ小学５年生を対象に、(株)セルフウィングの教材を使用して販売体験学習を実施したものである。

b)「マイチャレンジ学習」

○実施期間・回数・頻度・延べ時間

・2000 年度は以下の２種類の学習が実施された。

※2000 年５～11 月のうちの「移動教室」（２泊３日）内（マイチャレンジ学習）

※2001 年２月の１ヶ月（マイチャレンジ学習Ⅱ　職業体験学習）

職業体験学習は朝９時に学校を出発し、12 時に帰校する形で午前中のみ職業体験をする。

○実施場所

・商店や施設

○対象者の人数規模

・小学６年生 90 名（男子 51 名、女子 39 名）（マイチャレンジ学習）

○プログラムの内容

・地域を教室化して実施されている。

・「マイチャレンジ学習」は「移動教室」でのプログラムは以下のように８コース設定され、子ども達の関心に応じて選択する。主に、地元の自然や文化に親しむコースとなっている。

※酪農コース、林業コース、農業コース、高山植物コース、太鼓コース、バードウォッチングコース、ほうとううどんコース、歴史コース

・「マイチャレンジ学習Ⅱ」は職業体験学習となっており、子ども達が選択した商店あるいは施設に、自分でお願いに行き、職業体験をさせてもらう。実際に子ども達が選択した商店・施設は幼稚園や図書館、郵便局、信用金庫、駅、喫茶店、病院、八百屋、コンビニエンスストア、美容院等、多岐にわたる。

・職業体験のフローは以下の通りである。

オリエンテーション（子ども達が体験学習の内容を理解する）→名刺作成・依頼挨拶の練習→依頼（子ども達自身が商店・施設に依頼する）→先方許可→学校から正式の依頼状を渡す→【職業体験】→まとめ授業（学級活動）→礼状送付

○講師

・適宜関係機関・組織などに協力を仰ぎつつ、基本的には教師が指導する。

◆教育プログラムの効果

○子ども達が日頃のコミュニケーションとは異なる質と広がりを体験できる。特に、一連の「本物」の動作の中で大人にほめられる経験を通じて、子ども達は教室の中とは異なる質の自信を獲得できる。

○お店番体験を通じて、子ども達はお店の人やお客さんに対して積極的に対応するようになった。

○商店街での販売当日は、保護者も買い物に訪れ、子ども達が商店街にいるということ自体が商店街の活気を取り戻す契機となっている。

○お店番体験で子ども達がお世話になっていることへの挨拶があちらこちらで交わされ、商店街での新しいコミュニケーションが生まれる契機ともなっている。このコミュニケーションが徐々に定着し、ケーキ店でお店番体験をした子どもが、自分の誕生日にそこのケーキを買ってほしいと親に頼んだり、「私のお店」と表現するという報告が寄せられた。商店主側も、自然と子ども達に話しかけるようになり、コミュニケーションが持続されている。

○隣接する小平第四小学校や、東村山市南台小学校でも実施されるようになっている。

○子ども達は勤労の喜びを味わい、自己実現を図ることができる。また、職業や生き方の多様な選択肢に気付く。

○職業体験では、各自の選択した職業の表面的な印象と実際とのギャップに一様に驚いていた、という。特に、「一般のお客としては気付かない場所や仕事があるということを発見し、改めてそれぞれの職場を見直した」という感想が寄せられた。

○将来を考えるきっかけとなる。

○地域社会の協力を取り付ける準備を進める段階が、教職員にとっても学習の機会となる。

◆教育プログラム実施にあたっての課題

○一連のプログラムは学校だけで実施されるものではなく、地域社会や家庭などがそれぞれ主体的に取り組まなければ効果のないものになる。学校の目指すものと地域社会・商店街が目指すものとの間に何らかの接点が見いだされ、相互に歩み寄ることが重要である。

○ここでいう「目指すもの」は抽象的なレベルにとどめるのではなく、例えば「より気軽に子ども達が職業体験できるよう、そのコーディネートをする常設施設」のような

物理的なインフラも該当する。
◆行政・企業・地域社会による支援の状況 ○「すてきな町小平！（お店番体験学習）」は地元の商店街に定着してきており、29 業種 44 店舗の協力を得ている。 ○商店街には「教室」及び「講師」として全面的に支援をしてもらっている。商店街側でも活気を取り戻す契機となっており、新しいコミュニケーションが生まれている。 ○林業コースや酪農コースなどは地元のスペシャリスト（都の林務課、農家など）に講師を依頼している。
◆照会先 ○小平市立小平第六小学校 ・〒187-0031 東京都小平市小川東町 3-1-2 ・TEL:042-341-0356

(資料)中小企業総合事業団創造的中小企業支援部「平成 12 年度ベンチャー関連情報収集・提供・調査事業　ベンチャー企業事例・起業家教育事例調査報告書」（2001 年 1 月）
早稲田大学アジア太平洋研究センター・(財)ベンチャーエンタープライズセンター主催『平成 13 年度経済産業省「起業家精神涵養教材等開発普及事業」および「起業家教育交流促進事業」シンポジウム　起業家教育の普及に向けて～地域産業の明日へ～』（2002 年 3 月 18 日）配付資料